

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500188
法人名	株式会社お茶屋の里
事業所名	グループホームはなれ茶屋
所在地	愛媛県新居浜市西の土居町2-8-21
自己評価作成日	平成24年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者家族と連絡を密にし、事業所での行事にも度々参加して頂き、ご家族様と一緒にの食事会を度々開催している。その機会を利用してご家族の思いを聞かせて頂くようにしている。支援においては、毎日を楽しみ過ぎて頂くため、一日の中にもレクリエーションを多くしたり、季節の花を見に行ったり買い物や外食、ドライブなど度々の外出支援に頑張っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●格子戸から入ると、玄関入り口までは日本庭園で、利用者は散歩を兼ねて裏口からまわり、玄関近くで庭園を眺めながらお茶を楽しむこともある。</p> <p>●事業所では、今年度は「ご家族とのふれあいの機会をもつ」ことに力を入れて取り組まれた。利用者のお誕生会には、ご家族もお誘いして、一緒にちらし寿司を作ったり、ソーメン流しやクリスマス会等の行事時にも招待する等、ご家族とふれあう機会を多く持たれた。夕涼み会の後には、ユニット間の仕切りのドアを開放して、両ユニットのご家族同士が交流できるよう取り組まれた。ご家族からは、「ホーム便りに利用者や家族の写真をいっぱい載せてほしい」「運営推進会は、イベントと併せて開催してもらったら参加しやすい」等、意見や提案をいただき、反映されている。管理者は、「ご家族と交流を重ねることに、協力いただけるようになり、ご家族同士の仲も良くなっている」と感じておられる。それぞれのユニットの入り口には、職員の顔写真と名前を掲示して紹介しておられる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームはなれ茶屋

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)

氏名 神野晶子

評価完了日 平成 24 年 9 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホームの理念を掲示し、毎朝の朝礼時にお茶屋の里の理念と信条、はなれ茶屋の理念を全員で唱和している。	
			(外部評価) 「笑顔 誠実 ふれあい」の事業所理念を玄関等に掲示し、職員は、毎朝の朝礼時に法人の理念、信条と併せて唱和しておられる。管理者は、日頃から笑顔で職員に、「スマイル、スマイル」と声をかけ、職員が理念を意識して取り組めるよう、働きかけておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 夕涼み会では地域の方にチラシを配布し、多くの方の参加を頂いた。遊歩道の草取りをするなどして地域の清掃活動に参加している。散歩時に頂いたお花を育てたり飾ったりしている。住民運動会に参加し商品を頂いたり、文化祭にも作品を出品したりしている。地域の方にホームで盆踊りを教えて頂いたり、大正琴や踊りなどを披露して頂いた。近所のお寺の春祭りにも利用者さん全員参加させて頂いた。	
			(外部評価) 事業所では、毎月、近くの遊歩道の草取りやゴミ置場の清掃を、利用者と一緒に実施されている。遊歩道を散歩する際には、近所の方とあいさつを交わし、時には畑の野菜やお花をいただくこともある。職員は、顔見知りになった方達に、法人の夕涼み会等のイベントに参加いただけるよう誘っておられる。近くの公民館の文化祭時には、職員と利用者のご家族で作ったキルトタペストリー作品を出展され、利用者と一緒に見に出かけられた。バザーで食事や買い物を買ったり、知り合いの方と会って声をかけ合うような場面もみられたようだ。11月には、中学校の合唱部の生徒達が訪問してくれる予定となっており、利用者は、一緒に歌ったり、おやつを食べたりして過ごすことを楽しみにされていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 職場体験を受け入れたり、運営推進会議で日頃の実践を伝えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を利用し、夜間想定での避難訓練を実施した。入居者、職員の避難の困難さを感じて頂いたり、指導もして頂いた。夕涼み会を利用し運営推進会議にさせて頂いた。またホームの入居者の介護度、入居状況、行事内容や医療への連携など日頃の支援の報告をさせて頂いている。	
			(外部評価) 系列の3グループホームが同地区に所在するため、民生委員の方等からの希望もあり、会議を、3事業所合同で開催されており、今年度からは、会場を持ち回りで行なっておられる。又、法人の夕涼み会時に併せて会議を開催して、ご家族等も会議に参加しやすいように工夫をされた。会議時、事業所からは、行事報告や利用者の様子を報告されている。自治会の方から、地域の小さな神社のお祭りの情報を教えていただき、利用者とは出かけられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護福祉課にホームの活動内容や現状を定期的に文書で伝えている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方から書類の作成方法や法改正について、説明をしていただいたこともある。手品を見せてくれるボランティアグループを紹介してもらったこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) いつでも自由に入出入り出来ていたが、自立度が高く歩く速度も早い入居者が増え、1時間に何度も一人で外出する入居者もあり、全体的な支援に困難を極めるようになった。入居者の介護度の違いもあり、全てにおいて介助が必要な入居者も多いことから、夕方から夜間にかけて職員2名での見守りが不可能になり、会社の方針で入居者の安全を守る為に電動ドアになった。	
			(外部評価) 調査訪問時、事業所の裏口は、利用者が自由に入出入りができるように網戸にされていたが、「買い物したい」「家に帰りたい」と、ひとりで出かける利用者の方が複数おられるようで、安全面という点でご家族からの要望もあり、法人全体の取り組みとして、現在、玄関は、常時施錠されている。管理者は、「鍵はかけたくないが、『元気な利用者』が増えて、1日に複数の利用者の検索をする日もあり、見守ることが大変困難になった」と話しておられた。 利用者主体の暮らしの支援に取り組めるような環境整備に向けて、現在の環境を点検されてほしい。玄関に施錠することで起こる弊害について職員で勉強されたり、話し合うような機会を作っていかれてはどうだろうか。「利用者を地域全体で支える」という地域密着型サービスの観点から、ご家族や地域の方の理解や協力をいただけるような取り組み等も、すすめていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待については、事例を踏まえてどういう事が虐待になるのか話し合ったり、高齢者虐待の研修にも参加している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などに参加したり、朝礼後の勉強会で議題にしたりしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の時点では十分説明したと感じているが、暫く経って話をした時伝わっていなかったのかと思うことが時々ある。文書にして渡しているが、家族も高齢だったり流して聞いている事も多く、十分理解出来ていない事があつたりする。普段の面会時等にさりげなく再度説明をさせて頂くようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時にお話したり、ホーム内での行事に参加頂いた後ホームで食事会を開催し、職員や他の家族との交流をして頂いている。遠方の家族には電話にて要望や意見などを確認している。意見箱も設置している。	
			(外部評価) 事業所では、今年度は「ご家族とのふれあいの機会をもつ」ことに力を入れて取り組まれた。利用者のお誕生会には、ご家族もお誘いして、一緒にちらし寿司を作ったり、ソーメン流しやクリスマス会等の行事時にも招待する等、ご家族とふれあう機会を多く持たれた。夕涼み会の後には、ユニット間の仕切りのドアを開放して、両ユニットのご家族同士が交流できるよう取り組まれた。ご家族からは、「ホーム便りに利用者や家族の写真をいっぱい載せてほしい」「運営推進会は、イベントと併せて開催してもらったら参加しやすい」等、意見や提案をいただき反映されている。管理者は、「ご家族と交流を重ねるごとに、協力いただけるようになり、ご家族同士の仲も良くなっている」と感じておられる。それぞれのユニットの入り口には、職員の顔写真と名前を掲示して紹介しておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>毎月月末に社長や施設長から運営について説明がありスタッフ全員参加している。また毎月リーダーが参加して運営報告をして現場からの意見も報告している。また業務の合間に職員の意見や提案を聞き、検討したり出来ることは反映している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員の提案で、トイレの便器と壁との隙間に牛乳パックで作った台を置き隙間を埋めて、利用者が挟まらないようにされた。又、トイレと居室のドアが似ていて、入居間もない利用者が場所間違いすることがあったため、職員は、「便所」と書いたトルペイントのプレートを手作りして掛けられ、ご本人が場所を間違ふことがなくなったような事例がある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>毎日の職員の遅刻欠勤の有無を管理者から代表者に伝えている。また、職員研修や就業状況の報告を毎月代表者に伝えるミーティングをしている。またその状況を賞与の時の評価にも反映出来るようになってきている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>日頃の講習や資格取得に対する講習への参加を金銭面でもバックアップしてくれている。勤務の中で研修を取り入れている。就業後にも地域での研修には積極的に参加している。また、新人研修も講師をお願いし開催している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>東予地区での職員交流会や同業者との相互研修に多くの職員が参加できた。また、相互研修においては、相手側の良かった点、取り入れたい点を発表して貰った。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>ご自宅に訪問し、ご本人の様子や困り事を伺ったりして入居後の関係性がスムーズに行けるようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族の不安が軽減出来るよう、今までの困り事を聞いたり家族と職員と同行で心療内科を受診し、今後の方向性について確認し合うようにしている。また、入居直後の利用者家族には2日に一回程度の割合で電話で状況を伝え安心して頂けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス導入時特に家族が困っていた事としては、利用者の精神症状である事が多いので、医療と連携する場面では家族にも同席して頂いたりしながら、これからの支援方法を一緒に確認して頂くようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 庭掃除・植物の水やり・買い物や散歩などを職員と一緒にしている。洗濯物を一緒に畳んだり干したり、台所仕事やおやつ作りを一緒にしている。又外出支援では季節の花を楽しんだり、外食を共にしたりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族と一緒に病院受診したり、ホームで寿司パーティや誕生会をしたり、外出し易いように家族も外出行事への参加をお願いしている。入院中の家族の所に本人と職員と一緒に面会に行ったり、自宅で飼っていた犬の様子を見に自宅にお連れしたり、いろいろな場面で家族も利用者も安心して貰えるようにしている。また、薬の変更、体調の変調などがあった場合も連絡している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人と電話でお話をして頂いたり、会いたい人と面会や外出が出来るように支援して頂いている。また地域の運動会や文化祭に参加したり、盆踊りやバザーを開催し交流に努めている。 (外部評価) 近所から入居されている利用者は、職員と一緒に、時々犬を見にご自宅に戻っておられ、行き帰り等に近所の方と会うと、おしゃべりして楽しまれている。ご家族が来られ、週に2回ほど外食等と一緒に出かけている利用者もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ユニット全体で散歩したり、一緒にレクリエーションをしたりすることで仲間意識が生まれてきている。またお茶を飲みながら話好きな利用者が中心になり利用者同士で会話が楽しめるように間に入りながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 医療が必要になり、入院される入居者においては、退居後初期の頃は電話や見舞いにも数回行っているが、数ヶ月経過すると容態も悪化している事も多く、度々の連絡は実際には出来なくなってくる事が多い。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人のニーズに答えられるように支援しているつもりであるが、外出行事の場面においては、皆さんと一緒に行動して頂くことがある。その時点では億劫そうにされていても、後で写真を眺め嬉しそうにされているので、そういう事も必要であると思っている。意思が思うように表出できない入居者においては、いくつかの選択肢を用意し選んで頂くようにしている。 (外部評価) 利用者は、職員と1対1で過ごす時には、以前のことや日頃の思い・希望等をよく話して下さるようで、職員は、そのような時間を多く持てるように心がけておられる。さみしがる利用者には、職員が記録を付ける際にも、側に居られるように席を設けておられ、職員は、時々利用者の手をさすったり、一緒に歌を歌ったりされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 初回アセスメントで得られなかった情報は、その後の家族との話の中だったり、日頃の利用者との会話の中で見つけて追加事項として修正している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方は、ケアプランの中で時間を追って計画書の中に落とし支援している。有する力については、ことわざカルタやゲーム、お茶を飲みながらの会話の中で見せて頂いている。また職員側からお手伝いをお願いすることで持てる力を発揮して頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画については、家族とは電話や面会時に話合う事が多い。コミュニケーションが出来る利用者には今の気持ちや今後どうしたいかなど本人から聞き出している。本人から聞き出す事が困難な利用者においては、日常の団欒の中でその人なりの思いを職員間でアセスメントする事が多い。	
			(外部評価) 介護計画を作成する前には、職員が利用者個々に「何か希望がありますか？」とお聞きして計画に採り入れるようにされている。利用者からは、「おいしいものが食べたい」「ショッピングモールに出かけて外食がしたい」等の希望があり、利用者の状態に応じて、体操や歩行訓練を行い、個々の希望を実現できるよう、計画を作成されている。ご本人に希望を聞き取ることが難しい場合は、ご家族に聞き取るようにされている。介護計画は、入居時は、3ヶ月・その後は心身状態の変化や介護保険更新時等、おおむね6ヶ月～1年ごとに見直しでおられる。「朝礼の時間を長めにとって毎日モニタリング」を行い、3ヶ月毎にまとめて介護計画の見直しにつなげておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者が普段と変わった様子を呈している時は、報告・連絡・相談を密にし、日誌に記入して情報を共有出来るようにしている。各担当者にケアプラン見直し時、アセスメントシートに記入して貰い、他のスタッフと目線が違っているような時は、全体にどう感じているか聞かせて貰っている。ケアプランにした後は、毎日モニタリングシートに落とすことでケアプラン見直し時の参考になっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族と一緒に出来る行事(寿司パーティ・誕生会・Xマス会など)を開催しており、家族の思いを聞ける機会を多くし、日頃から本人、家族、職員の関係がスムーズに進むよう努力している。また、利用者のニーズに合わせて出来る限り外出支援をすることなどで、利用者にあった支援を心がけている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の中学生の合唱団に敬老会で歌って貰ったり、地域の方に盆踊りを教えて貰ったり、音楽やダンスなどいろいろな催し物に参加して貰っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 家族の賛同の上に二週間に一回協力医に往診して頂いている。家族からは大変喜ばれている。また、心療内科などにおいては自宅からのかかりつけ医がある場合には、受診にも家族の協力を得ながら柔軟に支援している。	
			(外部評価) 2週間に1回、往診に来られる協力医に利用者は診てもらっており、受診結果をご家族に報告しておられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 現在看護職員は在籍していない。介護職員が利用者の情報や気づきを報告連絡相談し、また適時に家族と相談しながら、適切な受診などの支援に心がけている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には、ホーム側から介護添書を作成し入居時の情報を渡したり、退院時は看護サマリーを頂いて情報交換している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在看護師がホームに勤務しておらず、当ホームでは経管栄養になった場合は、ホームでの生活を持続するには困難である事の説明をしている。重度化しても口から食事が出来ている間は、ホームで支援する事等の説明をしている。	
			(外部評価) ご家族は、「重度化に対してのイメージを持たれていない方」が多く、「利用者が重度化してから、今後のことについて考えるようなご家族も多い」ようだ。管理者は、ご家族に利用者の様子を報告して、事業所でできること・できないことを説明されている。 事業所では、利用者個々が、「その人らしい最期を迎えてほしい」と思っておられ、管理者は、外部研修で学んだ「その人らしい終末期」の内容をご家族にも知らせ、「ご家族と協力しながら利用者を最期まで支えていきたい」と考えておられる。又、今後は、利用者個々の現況の報告を細やかにこなったり、他利用者の重度化の様子を見ていただく等して、ご家族にも利用者の重度化や終末期について、イメージを持っていただきたいと考えておられる。利用者やご家族の希望に沿った支援ができるように、事業所の体制も整備していかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AEDを設置している。また数名の職員が再度消防署での研修を受講した。急変時や事故発生時にはどうするか普段から話し合ったり、電話口に急変時のマニュアルを掲示している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災マニュアルを作っている。訓練については、夜間対応・日中の火災などの避難訓練を消防署や地域の人の立会いの下行った。地域での防災訓練にも参加している。	
			(外部評価) 10月には、消防署の協力のもと、日中、台所からの火災を想定した避難訓練を実施された。3月には、運営推進会議時と併せて夜間想定での避難訓練を実施された。「まずは玄関や窓を解錠すること」について、課題も残ったようで、管理者は、「日頃から訓練のイメージトレーニングを行っておくこと」の必要性を感じておられた。自治会の方から「避難する時の姿勢は、もっと低くしたほうが良いのではないか」等の意見をいただいた。	数年前には、事業所周辺のお宅が水に浸かるような被害に遭われたこともあることを踏まえ、事業所は、今後、「地域の緊急避難場所として建物を提供」できるよう、地域の方達と情報交換していきたいと考えておられた。又、火災避難訓練時には、地域の方にも参加いただき、いざという時、協力いただけるよう、お願いしたいと考えておられた。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員には、一人一人に丁寧で優しい声かけと認知症利用者への尊厳を守る事の大切さを朝礼などで伝えたり、研修にも参加して尊厳を守る事の大切さを勉強して貰っている。	
			(外部評価) 事業所独自で家族アンケートを取った際の意見をもとに、管理者は、職員の言葉かけや対応について点検され、職員には、「利用者には敬語でお話をする」ことを指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員には利用者の思いに添って支援して貰っている。いつも全体で動こうとするのではなく、外出も少人数で出かけたり出来るように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 外出を希望する利用者が多く、天候を見計らって気軽に散歩が出来る様に支援している。また買い物好きな利用者においては買い過ぎる事が多いので、毎日の買い物は難しいがドライブなどで気分転換して頂けるようにしている。重度になってきている利用者においては、無理強いないよう休みたい時には休んで頂くようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で選んで頂き、自由に服を着ることが出来るよう支援している。また選ぶことが困難な利用者は入浴時や外出時に職員と一緒に選んで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みの味を把握し、味付けを変えてみたり形状を変えてみたりしている。又、食欲が減退している時は家族と相談して本人の好みそうな食事を提供している。また気の合う利用者同士で並んで食事ができるように工夫している。また食事中は音楽をかけて楽しい雰囲気作りを支援している。準備や片付けも職員と共に行きお礼を伝えている。	
			(外部評価) 法人の厨房から食事が届くようになっているが、魚料理等、献立によっては事業所で、もう1~2品追加して作ることもある。調査訪問時には、事業所で里いも等の煮物と卵焼き、果物を追加され、利用者で里芋の皮をむいたり、人参を切ったりして下ごしらえをされていた。利用者と職員は、同じ食事を一緒にテーブルで食べておられ、利用者が手をつけていないものがあれば、箸をつけられるように声をかけておられた。ご飯は、体調に合わせて、おかゆにする場合もあり、事業所でお米から炊いておられる。食べやすいように、おにぎりを好む方もある。仲の良い利用者同士でおしゃべりしながら食事する様子や、大皿に盛り合わせてある果物を、お隣の方の分も取ってあげている様子もみられた。食後に下膳したり食器を洗っておられる利用者の様子もみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 認知症の進行で水分補給が難しい利用者には、シュガーカットなどで甘めのお茶を出したりするなどで、水分確保出来るように努めている。好みの飲み物を把握し、いろいろ揃えて選んで頂けるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアなど毎回徹底している。月に二回訪問歯科診療の往診があり口腔ケアや治療をして頂いている。入れ歯も洗浄剤に毎晩漬けて清潔にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			利用者の排尿パターンを把握することで、少し早めのトイレ誘導をしている。トイレの場所が判らない利用者には、さりげない声かけでトイレまで誘導するようしている。また、車椅子から歩行が出来るようになった利用者においては、見守りと声かけ誘導で紙パンツから布パンツにすることが出来た。	
			(外部評価)	
			食前や食後、おやつの前等トイレに行けるよう、職員は、利用者に声かけしておられ、利用者ができるだけトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			牛乳、ヨーグルト、ヤクルトなど毎日の乳製品の提供をしている。散歩や歩行練習などで運動量を増やせるようしているが、なお便秘がちな利用者には医療と連携し服薬調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入りたいと言う時間に入浴支援をしたいが、レクリエーションや歩行練習など全体的な時間を考えると、利用者が入りたい時間に入浴する事は困難な事が多い。	
			(外部評価)	
			一般家庭のような浴槽で利用者ひとりずつ入浴できるよう、支援されている。利用者は、入浴中にお若い頃のエピソードを話して下さる方もあり、職員とおしゃべりしながら入浴することを楽しみにしている方もいる。ベンチを浴槽に付けて設置し、介助が必要な利用者も湯船で温まれるように支援されている。ゆず湯等になると、利用者の中には「もうそんな時期になったのね」と言われるようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			日中の運動で活動量を増やし夜間眠れるように支援している。それでも昼夜逆転傾向の利用者は、医療と連携し服薬調整している。夜間せん妄もあり難しい事も多い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎日の薬の仕分けの時に、その都度用法や副作用を確認しながら仕分けするようにしている。体調に変化がある時は、職員間で報連相しながら医師に連絡し服薬の調整をしている。入居者に変化があった時は家族に報告し、医療機関へ受診出来る様に支援したり職員間で話し合い、症状の緩和に努めている。また診療記録に記入することで情報の確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味を調べ、トランプ、ハーモニカなどのレクリエーションを楽しんだり、一緒に出来る風船バレーやことわざカルタを楽しんだり、植物の世話などでその人に合ったレクリエーションが出来る様に支援している。また写経をして頂いたりもしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 花が好きな方には四季折々の花が楽しめるよう、外出支援している。買い物好きな利用者には買い物に出かけられるよう支援している。天気の良い日は、遊歩道などを散歩している。 (外部評価) 利用者からは「美味しいものが食べたい」等の希望がよく聞かれ、回転寿司や近くのショッピングモールに外出に出かけておられる。又、温泉の足湯、西条のうちぬき公園等へも出かけておられる。みんなで季節ごとに、桜や梅のお花見やぶどう狩り、紅葉見物等に出かけたり、ご夫婦で入居されている方には、お二人に職員が付き添い、衣類の買い物に出かけ、外出して帰るような支援もされている。又、食事やおやつ材料を買いに出かけておられ、調査訪問時には、昼食のデザートや果物を買いに出かけておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物支援の時、出来る人には財布の中にお金を持って貰い、自分の財布からお金を出して貰えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 友人や家族へある程度自由に電話して頂いている。手紙を書く事が難しい方が多いので、暑中ハガキや年賀ハガキに近況が分かる利用者の普段の写真を印刷し、ご本人には一言を書いて頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節毎のタペストリーで壁面を演出し、季節感を感じて貰えるようにしている。また、季節の花をホールや玄関に飾ったり、金魚を飼ったりして楽しんで頂けるようにしている。	
			(外部評価) 格子戸から入ると、玄関入り口までは日本庭園で、利用者は散歩を兼ねて裏口からまわり、玄関近くで庭園を眺めながらお茶を楽しむこともある。廊下や居間には職員手作りのキルトのタペストリーが飾られ、季節に応じて替えておられる。居間には、外出時やおやつ作りの様子の写真等を掲示しておられ、テーブルには、花瓶に百合の花を飾っておられた。昼食時、BGMに演歌を流しておられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファに座って自由にテレビを観たり、畳コーナーで横になって貰えるよう布団を置いたりしている。日中居室に戻らずに、畳コーナーに上がり横になってくつろいでいる利用者もいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具、人形を持ってきて頂き、壁面も写真を貼ったり自由に使って頂いている。	
			(外部評価) 各居室からは、庭の木々が眺められる。居室はベットと畳の部屋があり、ご本人の身体機能に合わせて決めておられる。各居室には温度計をつけて、職員が室温管理をされている。ご自宅で使っていたダンスやソファ・ぬいぐるみを持ち込んでおられたり、散歩時に摘ん来られたコスモスの花をテーブルに生けている方もあった。調査訪問時には、利用者が居室を案内してくださり、ご自宅から持って来られた手作りの木箱を見せてくださったり、写経をしていることを教えてくださいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自分の居室には温かみのある表札を設置している。廊下、浴室、トイレには手すりを設置している。トイレは「便所」と分かりやすく表記している。	